

愛知県

災害時外国人支援活動講座開催業務

<報告書>



令和3年3月

目次

1	業務概要	・・・ p. 1
2	災害時外国人支援活動講座	・・・ p. 2
	1) 概要	
	2) 第1部 知識編	・・・ p. 6
	3) 第2部 実践編	・・・ p.15
3	今後に向けて	・・・ p.25

1 業務概要

■ 業務名

災害時外国人支援活動講座開催業務

■ 業務目的

愛知県は「あいち多文化共生推進プラン 2022」において、言語や文化、国籍のちがいに関わらず、誰もが防災に関心を持ち、災害時には互いに支え合う『「多文化防災」の推進』を掲げている。2018 年度に作成した「多文化防災ガイド」を広め活用を促すこと、自身の活動地域の現状と県内の先進的な取り組みを知ることによって「多文化防災」への理解を深めることを目的に、「多文化防災」の講座を開催する。対象は、大規模災害時に外国人県民への対応を直接行う市町村職、市町国際交流協会職員及びボランティアなどである。

■ 業務内容

災害時外国人支援活動講座の開催

2 災害時外国人支援活動講座

1) 概要

■趣旨

東日本大震災以降、平時はもとより災害時においても、外国人住民は支えられる側だけでなく、支える側にもなることが認識され始めた。しかし、今もなお、災害ボランティアとして外国人住民が参加することを想定していない市町村がある。また、外国人住民の主体的な参加をどう促していくのか模索しているという話も多く聞く。そこで、大規模災害時に外国人住民の対応を直接行う市町村・市町国際交流協会職員、NPO やボランティアなどを対象に、「多文化防災」の視点から外国人支援活動について学ぶ講座を開催する。

■講座の形式、内容

今年度は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面の形式を避け、ウェブ上で共有された動画を視聴してオンデマンドで学ぶ「第1部 知識編」と、リアルタイムのオンライン研修「第2部 実践編」に分けて行った。^{*}

「第1部 知識編」では、県内の外国人住民を取り巻く状況の理解と愛知県災害時多言語センターについて、さらに過去の大規模災害の課題と全国の外国人の担い手養成の取り組み、支援に役立つツールについて学んだ。「第2部 実践編」では、県内の先進的な取り組みの事例報告と、「やさしい日本語」について学び、2018年度に愛知県が作成した『多文化防災ガイド』を用いて、自身の活動地域で、外国人を含めた多様な主体と連携するためにどのような取り組みを始めるべきか考えるグループワークを行った。

^{*}「第2部 実践編」は当初対面で行う予定だったが、愛知県に緊急事態宣言が発出されたことを受けて、ビデオ会議ツール Zoom を用いたオンライン形式に変更した。

■対象者

市町村職員（多文化共生・国際交流担当者、防災担当者、消防担当者）、市町国際交流協会職員、市町村社会福祉協議会職員、災害時外国人支援ボランティア、その他災害時に外国人対応をする方、避難所運営に関わる方（自治会担当者）など

■開催方法

第1部 知識編… オンデマンド講座（2月3日～3月1日 17時まで）

第2部 実践編… 第1回 Zoomを使用したオンライン研修

第2回 Zoomを使用したオンライン研修

* 第2部は当初、第1回は小牧市、第2回は西尾市での対面型の講座を予定していた。

* 第2部の参加者は第1部の参加を必須とする。

* 第1部のみの参加も可とした。

令和2年度

災害時 外国人支援 活動講座



参加無料

要事前申込・先着順

第1部 オンライン講座 (YouTubeによるオンデマンド配信)

第2部 対面型ワークショップ

小牧市会場 2/19(金)13:30~15:40(定員80名)

西尾市会場 3/2(火)13:30~15:40(定員80名)

※同内容ですので、どちらかに御参加ください。

📣 プログラム ※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、内容は変更する場合があります。

第1部 知識編 (オンライン講座) / 約80分 [配信期間: 2/3(水)10時~3/1(月)17時]

- 「大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識」/ 講師 (一財)自治体国際化協会 多文化共生部
 - ・過去の災害からみる課題とその対応
 - ・支援の担い手としての外国人
 - ・コロナ禍における避難への対応
 - ・災害時多言語支援啓発動画「知識編」・「実践編」
 - ・「災害時多言語表示シート」の作り方
- 「愛知県災害多言語支援センター」について/ 講師 愛知県 多文化共生推進室
※動画は項目ごとに分かれていますので、少しずつ視聴していただけます。

第2部 実践編 (対面型ワークショップ)

- 事例紹介 西尾市「多言語支援センターの設置訓練」・豊橋市「外国人防災リーダーの育成」
- ワークショップ/ 講師 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋
 - ・「多文化防災ガイド」の活用
災害前に取り組んでおけることや、避難所で想定される事例について学びます。
 - ・「やさしい日本語」と翻訳機器の活用実践
スマートフォンのアプリや翻訳機器を使って、対話の実践をおこないます。

主催: 愛知県 共催: 小牧市、西尾市 運営: 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

📢 対象

市町村職員（多文化共生・国際交流担当者、防災担当者、消防担当者）、市町国際交流協会職員、市町村社会福祉協議会職員、災害時外国人支援ボランティア、その他災害時に外国人対応をする方、避難所運営に関わる方（自治会担当者）など



▲昨年度の講座の様子

📢 注意事項

[第1部]

- 第1部は、期間中に参加者自身が指定された YouTube の動画配信サイトにアクセスし、各自で視聴する方法で実施します。
- 動画を視聴するURLは、各回の申込期限以降に、申込者にメール等にてお知らせします。
- 第1部において、研修課題を提示します。第2部までに各自で取り組んでください。

[第2部]

- 会場内ではマスクの着用をお願いします。また、会場内に消毒液を設置しますので、手指消毒にご協力ください。
- 入口で検温を実施します。37.5 度以上の発熱が確認された方、または体調がすぐれない方は、参加をお断りする場合があります。発熱などの風邪症状がある場合には、参加をお控えください。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、第2部もオンラインでの開催となる場合があります。また、プログラムの内容を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。変更する場合には、愛知県 Web ページやメール等にてお知らせします。

📢 会場アクセス

小牧市会場：2/19(金)

小牧市味噌市民センター
講堂

(小牧市久保新町 60)

名鉄小牧線味噌岡駅から徒歩 5 分

申込期限：2/2(火)



小牧市

西尾市会場：3/2(火)

西尾市総合福祉センター
ふれあいホール

(西尾市花ノ木町 2 丁目 1 番地)

名鉄西尾線西尾駅から徒歩 7 分

申込期限：2/12(金)



西尾市

📢 申込み/問合せ

- 愛知県 Web ページの講座専用ページ（右のQRコード）から、申込みサイトにアクセスし、指定事項を記入して申し込んでください。Web 申込みが難しい方は、以下を明記の上、メール、FAX 又は電話でお申込みください。

①お名前 ②所属・職名 ③電話番号 ④メールアドレス ⑤参加希望会場

- 参加申込みは先着順で受け付けます。第1部のオンライン講座のみの参加も可能です(申込期限 2/12(金))。



講座HP

愛知県 県民文化局 県民生活部 社会活動推進課 多文化共生推進室

Tel : 052-954-6138 FAX : 052-971-8736 E-mail : tabunka@pref.aichi.lg.jp

2) 第1部 実践編

■受講可能期間

令和3年2月3日（水）～ 令和3年3月1日（月）17時

■受講方法

参加者に講義動画の URL が掲載された特別公開ページを知らせ、各自都合のよい時間にアクセスして視聴する。視聴後には研修課題に取り組む。

■参加申込者

118名（うち、第1部のみの申し込みは81名）

■プログラム

- ・動画1 「『第1部オンライン講座（知識編）』の受講にあたって」

総再生回数 147回

- ・動画2 「大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識」（29分23秒）

講師：自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課 課長 藤波香織氏

総再生回数 178回

- ・動画3 自治体国際化協会がウェブ公開しているビデオ

動画3-1 「災害時多言語支援啓発動画『知識編』」（14分19秒）

動画3-2 「災害時多言語支援啓発動画『実践編』」（11分12秒）

動画3-3 「災害時多言語表示シートの作り方」（1分24秒）

- ・動画4 「『愛知県災害多言語支援センター』について」（11分53秒）

講師：愛知県 社会活動推進課多文化共生推進室 主査 太田美代子氏

総再生回数 92回

■研修課題

受講者には、第2部実践編の受講までに以下の課題に取り組んでおくよう求めた。

令和2年度災害時外国人支援活動講座

災害時外国人支援活動講座 研修課題

1. 外国人住民に関する基礎データ

(1) 外国人住民の状況

皆さんの住んでいる地域にどのくらいの外国人が住んでいるか、また、地域資源や被災時の状況などについて予測してみましょう。

【基礎データ】

市町村名	人数・割合
人口（日本人+外国人）	(A)
外国人住民数（総数）	(B)
人口に占める外国人の割合	(B) / (A)

【外国人住民の内訳】

	国籍名など	人数	主な在留資格
1		人	
2		人	
3		人	
4		人	
5		人	
6		人	
7		人	

※上位のいくつかの言語で、どのくらいの外国人住民数をカバーできるかも確認しておきましょう。

【外国人住民が参画している地域活動など】

団体名など	主な活動内容	災害時における連携

(2) 被災及び避難状況の予測

【あなたの地域の被害想定】

「地域防災計画」や地域の「ハザードマップ」等を見て、「南海トラフ地震」が発生した場合の「あなたの住んでいる場所」もしくは「あなたが働いている場所」の被害想定を確認してみましょう。

※何パターンかの想定がある場合は、一番被害が大きいものを選んでください。

※これは被害を意識してもらうために調べてもらうものです。あなたの地域の資料の中から調べられた範囲でご記入ください。(地域によって記載がない項目もあります。)

あなたの地域の想定震度及び津波等の浸水深	
想定死者数	
想定避難者数	

外国人避難者数（避難者数×外国人％）	
指定避難所数	
その他、外国人住民が避難しそうな場所	具体的な場所も書いておけるといいですね ・ ・ ・

2. 「愛知県災害多言語支援センター」の様式の活用

「愛知県災害多言語支援センター」が立ち上がったことを想定し、支援を依頼してみましょう。

※センターに支援を依頼できるのは、市町村、市町国際交流協会、市社会福祉協議会、避難所です。NPO 団体、ボランティア、個人等の参加者は、避難所スタッフになったと想定し、課題に取り組んでみてください。

手順① 「愛知県災害多言語支援センター」の説明のページにアクセスしてください。

・検索サイトで **愛知県災害多言語支援センター** を検索しアクセス。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/saigaitagengo-center.html>

手順② 様式2-1を使って、必要となりそうな文章の翻訳依頼を書いてみてください。

・項目8「支援依頼様式」にある様式を使用。

(例) 避難所でのルールや食料配布のお知らせ、公共交通機関や道路の情報等。

手順③ 様式3-1を使って、必要となりそうな言語別の通訳者の依頼を書いてみてください。

・項目8「支援依頼様式」にある様式を使用。

(例) 避難所巡回や、り災証明の作成や提出に際して通訳をお願いしたい、等。

【注意点】

・様式のPDFデータかWordデータをダウンロードして、実際に記載してみてください。

・第2部の対面ワークショップの際に、実際に記載したものをご持参ください。

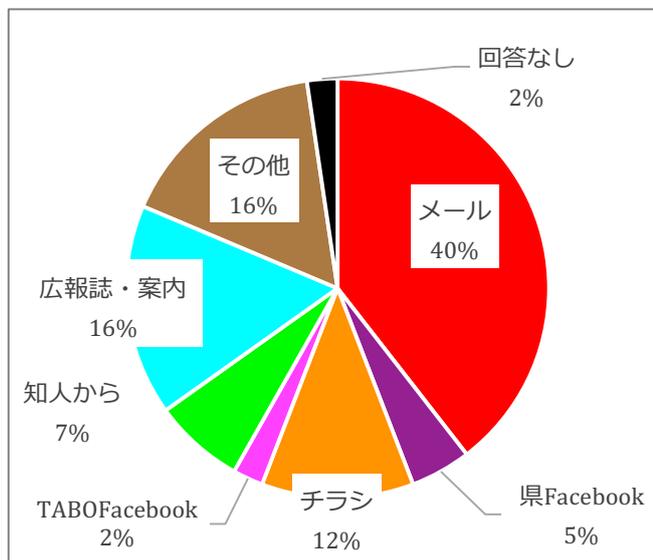
■受講者アンケート集計結果（回収数 43 件、回収率 35%）

1. あなたの所属を教えてください

行政職員	13
国際交流協会職員	6
市町村社会福祉協議会職員	2
民間・NPO 団体等【主な活動が多文化共生または国際交流】	0
民間・NPO 団体等【主な活動が4以外】	1
ボランティア【主な活動が多文化共生または国際交流】	6
ボランティア【主な活動が6以外】	1
個人	13
その他	0
回答なし	1

2. この講座を何で知りましたか

県からの講座の紹介メール	17
県の Facebook	2
講座の案内チラシ	5
TABO ネットの Facebook	1
知人からの紹介	3
市の広報誌や案内	7
その他	0
回答なし	1



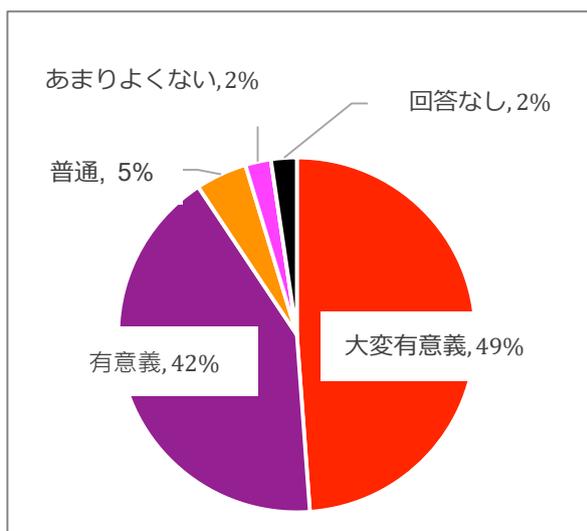
3. 第1部知識編（オンライン講座）の全体の内容はいかがでしたか

大変有意義だった	21
有意義だった	18
普通	2
あまりよくなかった	1
よくなかった	0
回答なし	1

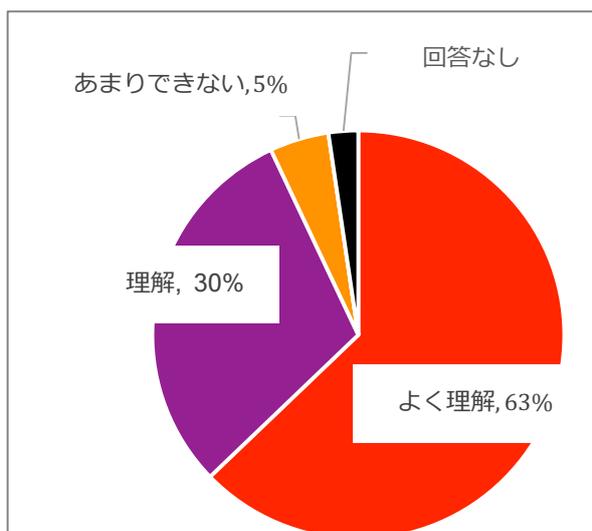
4-1. 「大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識」（動画2・動画3）は いかがでしたか

よく理解できた	27
理解できた	13
あまり理解できなかった	2
理解できなかった	0
回答なし	1

<設問3>



<設問4-1>



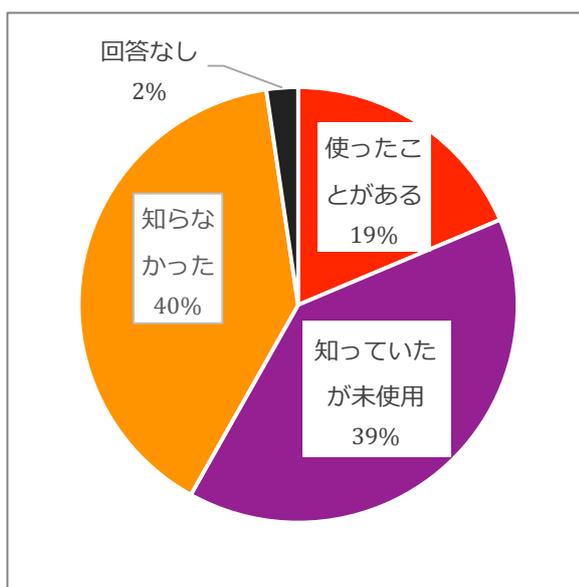
4-2. 自治体国際化協会が提供する「災害時多言語表示シート」は知っていましたか

知っていて、これまでに自身で使ってみたことがある	8
知ってはいたが、これまで自身で使ってみたことはなかった	17
あることを知らなかった	17
回答なし	1

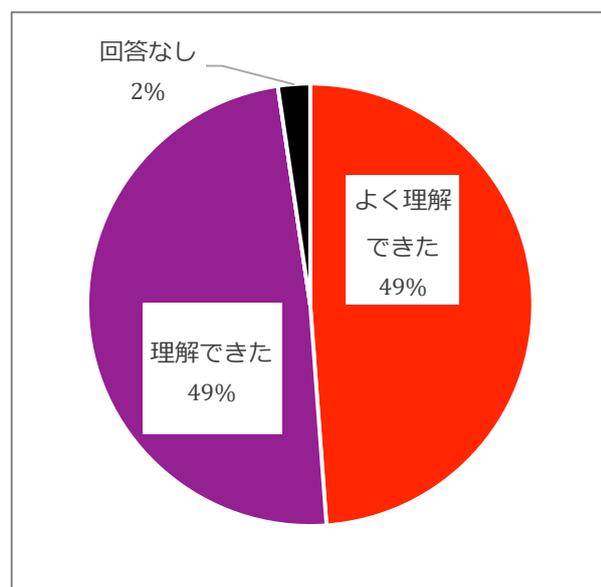
5. 「愛知県災害多言語支援センターについて」（動画4）はいかがでしたか

よく理解できた	21
理解できた	21
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0
回答なし	1

<設問4-2>



<設問5>



6. 動画による講義形式はいかがでしたか。よかった点・悪かった点をお聞かせください（抜粋）

- 問題なく視聴できました。
- ゆっくりお話しただけ、分かりやすかったです。
- 悪いところは無いと思います
- 会場までの移動時間なく、講義を受けることができたので、大変便利だった。
- 長時間続けて講義に参加できなくても、今回自宅から自分の都合で見ることができ、効率よく学べて良かった。
- 動画は効果的で分かり易かった。
- たくさんの資料に基づき解説してあったのでわかりやすかったです。聞き逃しても戻れるのがとても良かったです。
- 要点を絞ってありわかりやすかったです。被災された外国人の方のインタビューがありイメージがしやすかったので、実際に現場で支援された方の体験談を多く聞いてみたかったです。
- リアルで理解しやすい。
- グラフなどが活用されている点が良かったです。ですが音声の小さく少し聞きづらい動画がありましたのでそこが改善されると良いと思いました。
- 時間のある時に受講できるので助かりました。
- 仕事の合間に細切れで受講できたのが助かった
- 繰り返し聞くことにより、理解を深めることができた。ありがとうございました。
- 自分の都合に合わせて受講することができてよかった。また、期間内であれば見直すことができる点も良かった。
- 自分のペースで受講できたが、その場での気づきや疑問が薄くなってしまふ気がした。

- 動画を止めたり、見直したりでき理解しやすかった。自分の視点で見ることにはできるが、話し手にとって伝えたいこと、重要なことは何か区別しづらい。
- メモをしたい部分で止めたり、もう一度聞きたいとき巻き戻して見直したりと、大変良いと思いました。
- 聞き逃した箇所などを戻して聴くことができたり、何度も視聴できたことで、より理解が深まった。
- 一方的なお話は、気持ちが集中しにくいのですが、よくご説明いただけ、助かりました。

7. 第1部知識編の講義内容で質問があればご記入ください

- 県内で市町村が運営する支援センターがどれくらい立ち上がるのかわかりたい。
- 多言語支援センターとは？ 市役所が主体になって設立していくのか？
- 防災中心なのか多文化共生事業なのか、いろいろな課が関わっているようで、分かりにくい。これからどんなことに取り組んでいけばよいのか？
- 県と県内各市町村の連携について、もう少し詳しく聞けるとよかった。平時、どんな情報交換や情報・機器グッズなどの提供があるのか、発災後どの局・課がどんな役割を担って市町村のどことどのように連携して対応していくのかなど。また、各市町村で外国人支援に有用な取組みが独自になされているのであれば、それも知れるとよい。CLAIR の講義でもあったように、他市在住者が知人を頼ったり他市のよりよい外国人支援を求めて移動して来るといったことは当然起こり得るので、その際県としてどのように対応されるのか、各自治体はどうすればいいのかなど

も、県として何かご準備があるのか等もお伺いできるとよかったと感じた。

- 外国人の方が住まれている場所は点在しているか、集中しているかでも違うと思うが、避難所での要支援者への対応人数をもう少し詳しく知りたい（コーディネーター巡回チーム、翻訳チーム、IT チーム、相談窓口等）

■第1部知識編のまとめ

オンデマンド形式の講座の実施ははじめてだったが、動画4以外は申し込み人数以上の回数の視聴があった。また、「問題なく視聴できた」というコメントがあった。このことから、受講者がネットワークや機器の問題なく、期間内に講座を受講できたことがわかる。各講義動画の理解度の評価も高かった（設問4-1、設問5）。

オンデマンド形式に対するコメントを求めた自由記述の設問6には、移動が不要であることや都合の良い時間に少しずつ視聴可能であることの他に、途中で止めたり、繰り返し聞けたりしたことで理解が深まったという声もあった。どの講義動画も非常に情報量が多く充実したものであったため、何度も視聴できる今回の形式は合っていたと思われる。このようなことが、受講者の講義全体に対する満足度の高さに繋がったのだと思われる（設問3）。

また、自治体国際化協会が提供する「災害時多言語表示シート」について尋ねた設問4-2では、この講座以前にシートの存在を知っていた人は25名いたが、実際に使ってみたことがある人はそのうちの8名（32%）しかいないことが明らかになった。役立つツールを知っても、実際に使ってみるところまではなかなか進まない現実が浮き彫りとなった。使ったことがないものを非常時に突然使用することは難しい。それに気づいてもらえるような活動を講座に加える必要があるだろう。

3) 第2部 実践編

■日時

第1回 令和3年2月19日(金) 13:30~15:40

第2回 令和3年3月2日(火) 13:30~15:40

■開催方法

オンライン (Zoom ミーティング使用)

■参加者

第1回…15名 第2回…23名 (うち、2名は両日参加)

情報を外国人に伝える仕組み

災害多言語支援センターとは 参考資料

概要

大地震などの災害が発生した際に、日本語が十分理解できないために、
・行政機関等が発信する情報を享受できない
・地震等の災害経験が少ない
ことが原因で精神的な不安を抱えている外国人住民を支援するために
多言語での災害に係る情報を提供

業務内容

○行政機関等が発信する災害情報を、多言語に翻訳して外国人に届ける
○外国人のニーズのある情報を多言語化して届ける(避難所を巡回して、外国人の状況を把握し、ニーズを選別)

設置主体

災害対策本部の設置主体となる被災地の市町村及び都道府県が協働で設置することが望ましいが、実際には被災状況に応じて判断

※「災害多言語支援センター設置運営マニュアル(クレーア)」を基に制作者作成

(講義の様子)



(グループワークの様子)

■プログラム

13:30～ 開会挨拶

13:35～ 自己紹介（グループワーク5分）

13:45～ 事例紹介

- ・豊橋市「外国人防災リーダーの育成に向けて」

豊橋市 市民協創部多文化共生・国際課 主査 三輪田貴氏

- ・西尾市「西尾市の多文化共生防災の取組み」

西尾市 市民部地域つながり課 主事 稲吉崇文氏

<質疑応答>

14:15～ 休憩

14:20～ 研修課題のふりかえり（グループワーク10分）

14:30～ 災害時に役立つ「やさしい日本語」

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 安藤郁美

14:50～ 『多文化防災ガイド』の活用方法と実践

- ・内容紹介
- ・「災害時多言語表示シート」実践
- ・チェックリストの確認
- ・自分の地域で一年以内に取り組みたいこと

（グループワーク20分）

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 長尾晴香

15:25～ 各グループの議論の共有

15:35～ 閉会あいさつ

■受講者アンケート集計結果（回収数 29 件、回収率 79%）

1. あなたの所属を教えてください

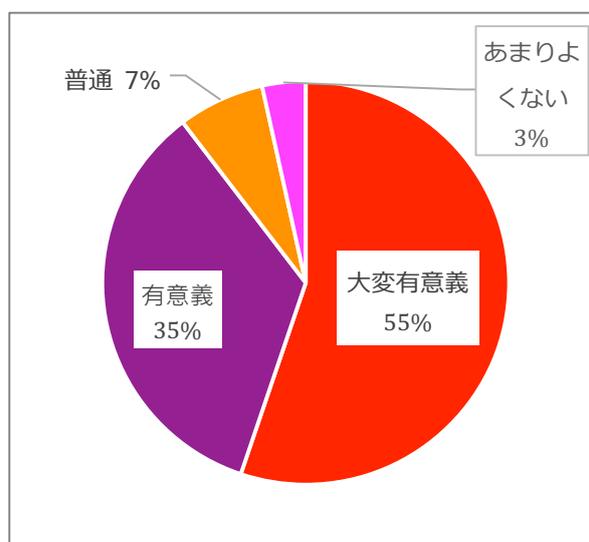
行政職員	8
国際交流協会職員	3
市町村社会福祉協議会職員	0
民間・NPO 団体等【主な活動が多文化共生または国際交流】	1
民間・NPO 団体等【主な活動が4以外】	0
ボランティア【主な活動が多文化共生または国際交流】	2
ボランティア【主な活動が6以外】	3
個人	9
その他:	3

2. 参加された日をお教えてください

2月19日（金）	10
3月2日（火）	17
両日とも参加	2

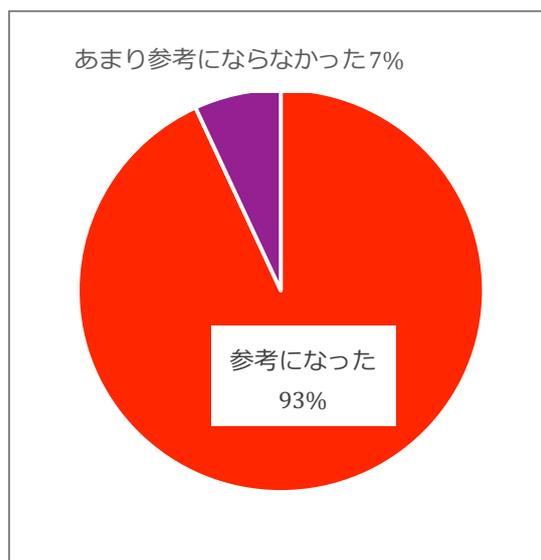
3. 第2部実践編（オンライン講座）の全体の内容はいかがでしたか

1. 大変有意義だった	16
2. 有意義だった	10
3. 普通	2
4. あまりよくなかった	1
5. よくなかった	0



4-1. 「事例紹介（豊橋市・西尾市）」はいかがでしたか

1. 参考になった	27
2. あまり参考にならなかった	2

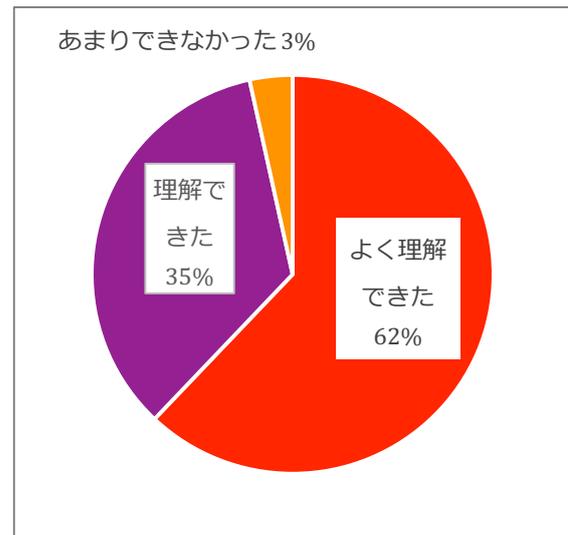


4-2. よろしければ質問 4-1 の回答の理由をお聞かせください（抜粋）

- 実際が取組がよく理解できたから
- 2 地区のご様子が分かり、自分の地区でも生かせると思ったから
- 豊橋市の防災リーダー育成の過程（養成講座やその後の活躍の場の確保）が大変参考になった。
- 他機関と協力して防災に取り組みされており、参考にしていきたいと思います。
- 実際に取り組みを行ってみてわかるような課題をしれたこと
- 外国人を防災の担い手としてどのように取り込むか、ヒントをいただけたから。
- 様々な市で災害時のリーダー発掘の取り組みが進んでいることがわかった。
- 外国人リーダーになる人材の発掘が課題と思っています。
- 国ごとに情報の入手手段が違うのがわかった。情報発信している各国の協力してくれるキーパーソンが必要なことが学べた。
- 実際の支援活動が知りたい

5-1. 講義「災害時に役立つ『やさしい日本語』」はいかがでしたか

よく理解できた	18
理解できた	10
あまり理解できなかった	1
理解できなかった	0



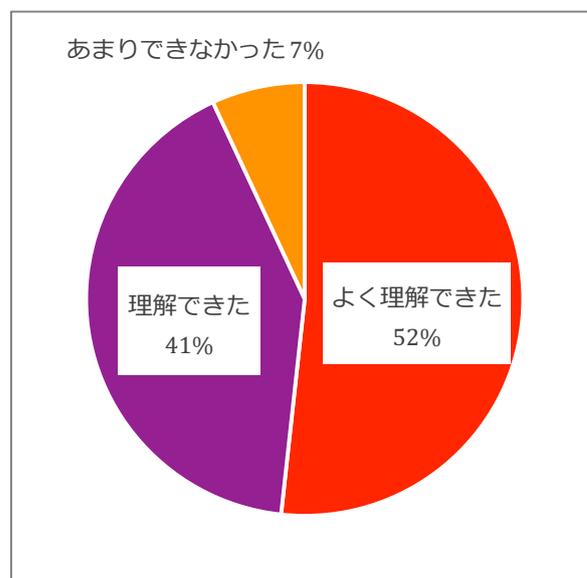
5-2. よろしければ質問 5-1 の回答の理由をお聞かせください（抜粋）

- 穴あきの文章で、日本語能力が十分でない方の目を実感できたため。
- 日本語、特に防災の表現は聞きなれないものが多いため、簡単な言葉で簡潔に伝える必要がありました。
- 外国人だから、英語が通じるわけではなく、日本での共通語である「日本語」を相手にあわせて使うことが大事だと分かった。翻訳ツールを使いこなすには、やさしい日本語が必要なことがわかった。
- 国際の方に、分からない日本語を使っている場合がかなりあります。参考にさせていただきます。
- 簡単だろうと思っていたが、うまく使えるようになるためには慣れることが必要だなと感じました。しかし、誰もができる多文化防災の内容だと思いました。
- 災害時に慌てないように、いろいろな場面での活用ができるようにしたいです。
- 逆翻訳の必要性がよくわかった。

- 他の言語に変換する際にも、やさ日を活用することで、正しく変換しやすい事、緊急時だからこそその確認の大切さ。やさ日を広める活動をしていく際に、ヒントになる説明がたくさんあった為。
- 実際の支援活動が知りたい

6-1. 「ワークショップ『多文化防災ガイド』の活用方法と実践」はいかがでしたか

よく理解できた	15
理解できた	12
あまり理解できなかった	2
理解できなかった	0



6-2. よろしければ質問6-1の回答の理由をお聞かせください（抜粋）

- チェックリストをしたことによって何ができていなくて何が必要かということがとても良くわかりました。まずはこのチェックリストからできるようにすることが第一歩だと思いました。
- 今後やっていくべきことが少し明確になった。
- グループワークをとおして自分がしたいことが明確になった点がよかった。
- グループワーク等少人数の実施であり、各人の発表の機会等がありよかった。

- 災害が発生する前に活用してみたいと思います。
- 自分の住む地域での外国人リーダーの発掘が課題です
- 端的でわかりやすい説明で、初めて読む人でも、取り組み易い構成になっているのがとても良いと思った。これを当市町でも広めるには、どのようなアプローチがしていけるか、考えて行きたい。
- ガイド自体はいいものだが、配るだけではなかなか活用されないだろうと感じました。日本語教室で授業の一環として取り入れるなどの働きかけが必要だと思います。
- 使ってみておかないと、災害の時にはすぐに使えないことが分かりました。
- 時間が足りなかったから
- 実際の支援活動が知りたい

7. 今後の参考とするため、Zoom を活用した今回の講座の進行について、よかった点、悪かった点を率直にお聞かせください

- 感染症流行下でも実施できてよかったと思います。
- 悪い点は無かったと思います。
- 全員の顔が見える、共有資料が見やすいなど、利点がたくさんある。
- 移動がない点がよかった
- 悪天候の中、出かけなくても講座が受けられるのは良かったです。インターネットの接続が良くない時があり、心配になりました。
- 職場から受講できたのは時間を効率的に使えた。一方でグループワークは対面の方が効果が高いと感じた。
- グループ討議があると、気持ちがりフレッシュされるので、集中力が続きました

- Zoom を活用することで、日本全国どこからでも参加できることはとても良いと思う。今回のように、全くの部外者（県外在住です）でもお受けいただき、大変多くの学びになったことに感謝している。
- 直接会わなくても良いので気軽に参加できた。参加したことでたくさんのお話がきけて多文化防災についてしっかり考えるきっかけとなりました。
- 各グループに担当者がついてまとめてくださり、非常にやりやすかったです。改善点としては、グループワークにもう少し時間を多く取れるといいのではないかと感じました。
- グループワークは、それぞれのグループがどういう状態か、どこまで話し合いが進んでいるかに関係なく、時間が来たらメインルームに戻ってしまうので消化不良になりやすい。
- Zoom での会議はやりにくさを感じます
- グループでの発言がしやすかった。少人数で地域の情報交換の時間が欲しかった。
- 遠くからの参加者には有益と感じる。時間制約が気なる。意見交換の場があると良かった。

8. 講座全体に関してご意見、また今後講座で取り上げてほしい内容があればお聞かせください（抜粋）

- 外国人防災リーダーの具体的な育成事例を知りたいです。
- 東日本大震災以降起こった災害時の外国籍の方への取組みを知りたい。
- 実際の支援活動を知りたい
- この多文化防災の取組みを、いかに日本人にも浸透させていくか。外国人市民の巻き込みのヒントなど、成功事例、失敗事例も含め、他市の取組みなど知りたい。

- 何も知らない未熟な学生でしたが、分かりやすい講義と避難所運営に役立つことを教えてもらったのでとても有意義な時間でした。ありがとうございました！
- 実際に外国の方が各グループに1人程度いるといいなと思いました。
- 支援センターや避難所など、実際の現場で受講できる講座が効果が高いと思う。
- 初めてのZoomで、うまくできないこともありましたが、フォローしていただき、ありがとうございました。もう少しZoomの活用を勉強し、より多くの方が気楽に参加していただけるように声掛けをしていきたいです。いろいろな意味で仲間を増やすことが大切だと感じました
- 個人レベルの話になってしまいますが、各家庭の備蓄が気になります。水、食料などを備蓄している外国人は少ないのではないのでしょうか。避難所では、ハラル対応はしていないので自分たちで準備しなければなりません。金銭的な面、すぐ国に帰るからと備えがないのが心配です。どうやったら外国人に必要性が理解してもらえるのでしょうか。
- 近所付き合いが防災減災や地域力になることを教える。教える側が外国人集住地域を視察・学ぶ。
- (外国人社員や技能実習生を雇用している) 企業との付き合い方について。

■ 第2部実践編のまとめ

第2部は、①多文化防災に取り組んでいる豊橋市と西尾市の事例報告、②災害時に役立つ「やさしい日本語」と翻訳ツール使用時の注意点、③『多文化防災ガイド』の説明とチェックリストの実践、の3つのプログラムで構成されている。Zoomを用いたリアルタイムの講座であることから、少人数のグループワークを複数回行い、他の参加者との交流の機会を作った。参加者が非常に多様だったため、グループは属性が同じ人でまとめ、各グループにTABO ネットメンバーを進行役として配置した。

受講者アンケートを見ると、どのプログラムも評価が高い。自由記述を見ても受講者が多くの学びを得たことがうかがえる。オンラインで実施したことによる参加のしやすさは第1部と同様好評だったが、グループワーク、意見交換に関してはもっと時間がほしい、対面の方がしやすいという声が複数寄せられている。受講者が他の参加者との交流や情報交換、つながり作りを重視していることがうかがえる。今後の参考にしたい。

受講者が講座を通して知ったこと、見つけた課題・目標をそれぞれの場所へ持ち帰り、周囲の人を巻き込んで、多文化防災を実現させる一歩を踏み出してほしいと思う。

3 今後に向けて

本講座はオンライン開催など、はじめての取り組みも多かったが、受講者アンケートを見る限り、多くの方から学びの多い意義のある機会だったと好評を得ることができた。また、運営側としても今後の活動に向けて多くの示唆が得られた。今回の経験をもとに今後さらに多文化防災を推進していくために、以下のことを提案したい。

＜今後の多文化防災推進に向けた提案＞

1. 本講座と同様の講座を今後も定期的・継続的に開催すること
2. 講座の主な対象を災害時外国人対応の体制づくりを担う人々（自治体職員、国際交流協会職員、社会福祉協議会職員）とし、参加者の役割に合わせた講座を開催すること
3. 本講座の内容に加え、避難所での外国人対応などの体験を通して、必要なものの整備や、連携等を議論するステップアップ講座を開催すること
4. 各自治体が行っている防災研修や支援者の養成研修の中で多文化防災の視点がどの程度取り入れられているかを調査すること
5. 県および各市町村の既存の防災に関わる研修に「多文化防災」の要素を取り入れるようにはたらきかけること

まず、本講座は多文化防災を考えるきっかけとなる基礎的な内容のものであり、今後もより多くの人に参加してもらうことが多文化防災の考え方を広げる一助になると考える。そのため、同様の講座を今後も定期的・継続的に開催することを提案する（提案1）。

次に、講座の対象者についてである。これまで、本講座の対象者は「市町村職員（多文化共生・国際交流担当者、防災担当者、消防担当者）、市町国際交流協会職員、市町村社会福祉協議会職員、災害時外国人支援ボランティア、その他災害時に外国人対応をする方、避難所運営に関わる方（自治会担当者）など」と非常に広く設定されてきた。しかし、立場が違えば必要な情報や知りたいことは大きく異なる。実際に、避難所での外国人住民の支援に協力したいという動機で参加した語学ボランティアの方は、知りたかった情報が得られず、講座の満足度が低かった。このようなずれを防ぎ、参加者にとってより有用な内容の講座にするためには、講座の対象を絞ることが有効だと考える。そこで、本講座の主な対象を災害時外国人対応の体制づくりを担う人々（自治体職員、国際交流協会職員、社会福祉協議会職員）とし、参加者の役割に合わせた講座を開催することを提案する（提案2）。

また、第2部の受講者アンケートには、「災害時多言語表示シート」を短時間で作成するワークに関して「使ってみておかないと、災害の時にはすぐに使えないことが分かりました」というコメントがあり、実際に使ってみたことが気づきに繋がっている様子が見られた。また、外国人の参加や実際の現場での開催の提案があった。以上のことから、本講座の内容に加え、避難所での外国人対応などの体験を通して、必要なものの整備や、連携等を議論するステップアップ講座を開催することを提案する（提案3）。

最後に、多文化防災の取り組みを実践するためには、体制づくりとともに、それぞれの避難所運営者や支援者らとの意識共有が必要である。当団体が本事業を受託し今年度で3年目であるが、地域で行われている避難所運営に関わる研修や支援者の養成において、外国人住民に対する対応や多文化防災の考え方は取り入れられているのだろうか。そこで、各自治体が行っている防災研修や支援者の養成研修の中で多文化防災の視点がどの程度取り入れられているかを調査することを提案する（提案4）。そして、調査結果をもとに、

県および各市町村の、既存の防災に関わる研修に多文化防災の要素を取り入れるように働きかけることを提案する（提案5）。また、既に取り組んでいる地域の実践例を他地域に紹介することで、取り組みの輪を広げることできるだろう。

このように事業をさらに発展させることができれば、より多くの人に多文化防災の考えを広め、それぞれの現場での活動につなげてもらうことができると考えている。

2021年3月

愛知県 災害時外国人支援活動講座開催業務〈報告書〉

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋